

News Release

2009年4月27日

ディーリンクジャパン株式会社

D-LINK 「IPv6 Ready Logo Phase-2 Core」を取得

ネットワーク機器・製品ソリューションをグローバルで展開するD-Link Corpの日本法人、ディーリンクジャパン株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:廖 晋新(マーティ・リャオ)、以下:D-Link)は、「DGS-3200シリーズ」とxStack ギガビットマネージメントスイッチの「DGS-3600シリーズ」が「IPv6 Ready Logo Phase-2 Core」を取得したことを発表いたします。この認証の取得は、企業やマーケットに対するIPv6への需要を満たしながら、最高水準の安全なネットワークを提供するD-Linkの方針が大きく評価されたことを意味しています。

「IPv6 Ready Logo」テストシリーズの種類は増加しています。「Phase-1」に比べ「Phase-2」は、「Core IPv6 プロトコルテスト」などの新しいテストカテゴリが拡張されており、より最適な準拠性が検証されています。「IPv6 Forum」はIPv6の発展、普及に向けて技術指導などを行う国際的なフォーラムです。「IPv6 Forum」によって開始された「IPv6 Ready Logo」プログラムは、ネットワーク機器に対してIPv6への対応を認証することで、ユーザの信頼性を確保することを目的とした順応性と相互運用性の検証プログラムです。

「DGS-3400シリーズ」、「DGS-3600シリーズ」は2007年、「IPv6 ready logo Phase-1」を取得しました。今後、D-Linkはより多くの製品での「IPv6 ready logo Phase-2」の取得に向けて、対応製品の開発を続けています。

「DGS-3200シリーズ」とxStack ギガビットマネージメントスイッチ「DGS-3600シリーズ」は信頼性や相互運用性などの全ての要件を満たして「IPv6 ready logo Phase-2」を取得しました。また、これらのスイッチシリーズはIPv6に対応しているだけでなく、マルチベンダー環境においても、IPv6機能をサポートする他の製品とも共有することができます。IPv4機器からIPv6機器への移行コストの節約も両製品の「IPv6 ready logo Phase-2」の取得により可能になりました。

最新の予測(<http://www.ipv6forum.com>)では、IPv4アドレスのリソースは2011年にも枯渇するとされています。これに対し128ビットのアドレスであるIPv6への移行により、IPアドレスのリソースは増加し、この問題は解決されます。IPv6はネットワーク管理性や機動性の拡大などと共に内部セキュリティも保有しており、政府関係機関、教育機関、および企業体からのIPv6のサポートを求める需要は大きく、さらに増加し続けています。

「IPv6 ready logo Phase-2」を取得した「DGS-3200シリーズ」と「DGS-3600シリーズ」の運用は、「最高の応用技術による低コストでのネットワーク環境の強化」を実現するD-Link製品の特徴を証明しています。」とディーリンクジャパン株式会社代表取締役社長 Marty Liaolは語ります。「これら「DGS-3200シリーズ」と「DGS-3600シリーズ」は、安全なネットワーク環境、特にIPv6テクノロジーによる安全なデータ通信への需要がある、政府、教育機関などに対して今後供給されていくでしょう。」

「DGS-3200シリーズ」、「DGS-3600シリーズ」はビジネス/企業などの特定のマーケットに向けたL2/L3 ギガビットソリューションです。これらの2つのシリーズは高度な管理性能、強固なセキュリティ、および高い信頼性を保有しています。「DGS-3200シリーズ」は「DGS-3200-10」と「DGS-3200-16」、「DGS-3600シリーズ」は「DGS-3612」、「DGS-3612G」、「DGS-3627」、「DGS-3627G」、および「DGS-3650」で構成されています。これらのシリーズへの投資により、現在のIPv4からIPv6ネットワークへのスムーズな移行が実現し、より強固なセキュリティと多くのアドレスが必要になる将来のネットワーク環境へのアップグレードは、安全で確実なものになります。

【D-Link 社について】

世界 68 ヶ国、166 拠点を有するグローバルネットワークベンダー・D-Link は 20 年の歴史を持ち、エントリーレベルからハイエンドまでのスイッチ、ワイヤレス LAN 製品群、メディアコンバーター、IP カメラ、ネットワークセキュリティ等、ネットワークングの全分野を網羅する総合ネットワークソリューションを提供しています。D-Link はこれらの製品を”統合”させることを理念とし、現在はセキュリティと “グリーン IT” に注力しています。日本では OEM 事業を展開した後、2005 年 7 月に現日本法人を設立、自社ブランドメーカーとして、D-Link 製品の国内への浸透を図っています。